

氏 名	加藤 佐千子 (カトウ サチコ)
本 籍	福井県
学 位 の 種 類	博士 (老年学)
学 位 の 番 号	博士 第 068 号
学位授与の日付	2014 年 3 月 27 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
学 位 論 文 題 目	高齢者の食物選択動機と関連する要因 一新規に開発した高齢者用食物選択動機質問票を用いて－

論文審査委員	(主査) 桜美林大学教授	渡 辺 修一郎
	(副査) 桜美林大学教授	芳 賀 博
	桜美林大学教授	長 田 久 雄
	広島修道大学教授	今 田 純 雄

論文審査報告書

論文目次

I	緒 言	1
II	高齢者の栄養素摂取と健康との関連	2
	1) わが国の高齢者におけるエネルギー, 炭水化物, たんぱく質, 脂質摂取量の推移	2
	2) 高齢者の健康と栄養素	2
	3) 食物摂取に影響を及ぼす要因	3
	4) 栄養素摂取とその問題	3
	5) 栄養素摂取の効果	4

6) 研究の目的と意義	6
図表	8
III 高齢者の食物選択を動機づける要因に関する先行研究とその問題点	10
1. 用語（食物，食物選択，食物選択動機）の操作的定義	10
2. 高齢者を対象とした「食物」と「動機」のキーワードを含む論文数	11
3. 高齢者の食物選択に影響する要因を検討した先行研究	11
1) 食物嗜好と食欲に影響する要因	11
2) 食物選択を動機づけるものとそれを規定する要因	12
3) 食物選択動機と食物摂取との関連	13
4) 食物選択と食物認知，態度との関連	14
5) 食物選択と知識との関連	15
4. 食物選択動機と関連する理論的モデルと概念モデル	16
1) 計画行動理論と社会的認知理論における動機の位置づけ	16
2) 食物選択概念モデル	17
5. 食物選択動機と調査票	22
6. 研究の仮説とモデルおよび対象者選定の条件	23
図表	25
IV 研究 1 高齢者の食物選択動機の様相	27
1. 研究 1-1 高齢者の食物選択動機項目の生成	27
1) 目的と意義	27
2) 方法	27
3) 結果	29
4) 考察	30
図表	32
2. 研究 1-2 食物選択過程構成要素別にみた高齢者の食物選択動機の様相	41
1) 目的と意義	41
2) 方法	41
3) 結果	41
4) 考察	48
5) まとめと課題	50
図表	52
V 研究 2 高齢者用食物選択動機質問票の開発	59
1. 研究 2-1 高齢者の食物選択動機の構造	59
1) 目的と意義	59
2) 方法	59
3) 結果	60

4) 考察	63
図表	67
2. 研究 2-2 高齢者の食物選択動機質問票の基準関連妥当性の検討	76
1) 目的と意義	76
2) 方法	76
3) 結果	78
4) 考察	81
5) まとめと課題	83
図表	84
VI 研究 3 食物選択動機と関連する要因	92
1) 目的と意義	92
2) 方法	92
3) 結果	96
4) 考察	108
5) まとめと課題	115
図表	118
VII 総合的考察	144
1) 研究全体のまとめと意義	144
2) 本研究の新規性と独自性	146
3) 食物選択動機を利用した適切な食物選択を促す援助方法の提案	146
4) 本研究の限界と課題	147
謝 辞	149
引用文献	150
資 料	162

論文要旨

本論文では、まず、高齢者の栄養摂取と健康との関連、および、高齢者の食物選択動機に関連要因に関する先行研究の広範なレビューを行い、これまでの研究は、目標とする食物の種類やその摂取すべき量を明らかにすることに重点が置かれ、高齢者の食物選択の動機についてはほとんど考慮されていないこと、高齢者の食物選択動機と食物摂取との因果関係を実証した研究が希少であること、食物選択動機を測定する調査票は、海外では散見されるが、わが国では、妥当性のある多次元の高齢者用の食物選択動機を測定するものが

ないこと、などの課題を示した。

これらの背景をふまえ、本研究は、食物摂取をする前の認知的な様相をもとに食物選択動機質問票を新規開発し、食物選択動機と関連する要因を明らかにすることを目的とし、一連の研究を構築した。

研究 1 は、高齢者が食物を選択する際に何を重要と考えているのかその様相を明らかにし、食物選択動機質問票の作成のために使用可能な食物選択動機の項目を収集することを目的として行った。生活機能の高い高齢者 31 名に対して半構造化面接を行い、210 項目のカテゴリーを抽出し、高齢者および栄養士らの検討を通して、食物選択動機を構成する 159 の共通項目および 12 項目の個別項目を生成した。また、これらの高齢者の食物選択動機が、Furst ら(1996)が報告したものと類似したものであることを明らかにした。

研究 2-1 は、研究 1 の成果をもとにして多次元の食物選択動機質問票を作成し、質問票の信頼性、構成概念妥当性を検証し、質問票の利用可能性を確認することを目的としておこなった。生活機能の高い 60 歳以上の高齢者 547 名を対象とし、食物選択動機 171 項目について重視する度合を自記式質問紙にて把握した。まず、探索的因子分析により、食物選択動機が 9 個の潜在因子（感覚/気分、品質の明示性、体重コントロール、健康管理、栄養バランス、調理の手軽さ、親和性、関係性の折り合い、経済性）からなることを明らかにした。次いで確認的因子分析によりモデルの適合度が良好で、内的整合性も十分であることを示した。さらに多母集団同時分析により、食物選択動機の構成概念、構成概念間の関連が男女で同質であることを示し、9 因子 27 項目からなる食物選択動機質問票（FCQ-E）を作成した。

研究 2-2 では、60 歳以上の高齢者 385 人に対し、開発した FCQ-E を実施し、その交差妥当性および基準関連妥当性を確認した。

研究 3 は、研究 2 で開発した FCQ-E を用いて、1)人口統計学的要因、生活特性は食物選択動機に影響を及ぼす、2) 食物選択動機は、食物選択、QOL、健康度自己評価に影響を及ぼす、という 2 つの仮説の検証を通して、高齢者の食物選択動機と関連する要因について明らかにすることを目的として行った。60 歳以上の高齢者 385 名から得られたデータをもとに、人口統計学的要因・生活特性、食物選択動機、食物選択、健康度自己評価および生活の質（QOL）指標を用いた構造方程式モデリング分析により 2 つの仮説を検証し、結果から「栄養バランス」の動機づけを行うことによって、食物選択状況の改善に寄与できる可能性を示した。また、「栄養バランス」動機から影響を受けた食物選択の状況が、健康度自己評価や精神的活力へ影響を与えるなど、食物選択のより良い状況のみならず、QOL や健康度自己評価の改善も期待できることを示した。

以上の一連の研究により、日本人高齢者の食物選択動機の様相を解明したうえで、わが国の高齢者用の食物選択動機質問票（FCQ-E）を開発し、これを実際の食生活指導に生かす方策について実証した。

論文審査要旨

本研究の枠組みは、高齢者の食物選択を動機づける要因に関する国内外の先行研究の広範なレビューを行い、食物選択動機に関連する要因および食物選択モデルを系統的に整理し、課題を明らかにしたうえで論理的に構築されている。研究 1 では、生活機能の高い在宅高齢者を対象とした質的研究を実施し、わが国の高齢者の食物選択動機の構成概念が、Furst ら(1996)が報告したものと類似したものであることを明らかにしている。この研究成果をもとに研究 2 では 9 因子 27 項目からなる高齢者用食物選択動機質問票 (FCQ-E) を開発し、調査票の内的整合性および妥当性を検証し、指標の有用性を確認している。さらに研究 3 では FCQ-E に関連する要因を検討し、食物選択状況を改善させる要因、および食物選択状況が改善することにより高齢者の主観的な生活の質の指標の改善が期待できることなどを明らかにし、FCQ-E を実際の食生活指導に生かす方策について実証的に検討している。これら一連の研究は、十分な先行研究の検討をもとに、多数の高齢者を対象として最適と判断された方法で得られたデータを用い、適切な分析方法にて遂行されており、研究の意義・有効性、信頼性、独創性において博士論文として十分な水準にあるものと判断し、合格と判定した。

口頭審査要旨

公開審査では、30 分間の論文概要の発表の後、30 分間にわたり質疑応答が行われた。本研究の知見へのコホート効果の影響の可能性、わが国の高齢者の食物選択動機に **Ethical Concern** が抽出されなかった背景、研究 3 において男女別の分析を行った理由などについての質問がなされた。コホート効果については、食糧難を経験した世代の前後、男子学生への家庭科教育に変化があった前後などで現れる可能性があり、今後も研究を継続していくことの意義が示された。**Ethical Concern** については、日本人は信心やベジタリアンなどの理由で特定の食物を排除する傾向が少なく、また、産地を重視する動機は「品質の明示性」の因子になったことが説明された。男女別の分析を行った理由として、研究 3 では食物選択や QOL 指標も従属変数としたため、モデルの構造に性差が存在する可能性も考慮したことなどの説明がなされた。審査の結果、質的研究および量的研究の両手法を適切に用いて日本人高齢者の食物選択動機の様相を解明し、高齢者用食物選択動機質問票を開発し、その有用性を示した本論文は、博士論文として十分な水準にあるものと、主査および副査全員が合格と判定した。